

MAPPS story

Series Column

Why do we built this platform?

内田 剛史

早稻田システム開発株式会社
代表取締役

Ep. 25

「博物館力」の
伝達方法

「ポケット学芸員」の未来像

皆様お忘れかもしませんが(汗)、MAPPS Storyの「MAPPS」は、実は非常に大きなビジョンです。中小企業の弊社には不相応なほど遠大な「計画」でしたが、ポケット学芸員の登場によって、かなり現実味を帯びてきました。

MAPPS Story の「MAPPS」とは、「Museum Archive Platform Projects」の略です。先進的な試みがあっても参加できない中小館も含め、日本中の博物館にご利用いただける資料・作品データのプラットフォームを創りたい。これは、弊社が<I.B.MUSEUM SaaS>プロジェクトを立ち上げる際、根幹に位置づけたコンセプトです。

博物館クラウドだけでなく、「学芸員オンライン」などいくつかのプロジェクトは、このコンセプトがベースとなっています。打ち上げ花火で長らく動いていないように見えたかもしませんが(汗)、それを体現するのが「ポケット学芸員」なのです。

各館の情報をひとつの仕組みで管理する<I.B.MUSEUM SaaS>は、プラットフォームのひとつと言えます。よって、ご利用館が増えるほど、「ポケット学芸員」と同じように「同じアプリ」で情報を発信する「お仲間館」が増えることになります。

自館のチカラだけでは難しくても、お仲間と一緒に

たとえば、こんなシーンをご想像ください。クールジャパンブームで来日する外国人向けに、広重や北斎の作品で名所を案内するアプリを作るとしましょう。これは、「ポケット学芸員」と同様に、弊社でアプリを用意します。

該当の作品を所蔵している館には、弊社から「浮世絵名所案内アプリで作品データを公開しませんか?」というお誘いをお届けします。参加方法は、<I.B.MUSEUM SaaS>から「浮世絵名所案内アプリに公開する」にチェックするだけ。

もし、このアプリに多数の館の作品が登録されれば、立派な「観光案内アプリ」になり得ます。単独では難しくても、みんなでデータを持ち寄れば、ひとつのコンテンツになる。これがプラットフォーム、ビッグデータ的な情報活用の威力なのです。

- 明治維新150年記念、資料から歴史を学ぶWEBサイト
- 東京オリンピック記念、昭和の暮らしを資料で再現するノスタルジックなアプリ
- 夏休み特別企画・自由研究に使える身近な草花の標本データベース

…いくらでも出てきますね。同じ形式のデータがあり、同じアプリで発信するのですから、その気になれば実現は容易です。

そして、もうひとつ。Ep.23で触れた「先進的な試みが普及しない理由」をお話しましたが、多数の館が共用するプラットフォーム内に「機能のひとつ」として提供すれば、予算に恵まれない館も応用できる環境が整い、普及の一助となるでしょう。

実は、これこそがMAPPSで描いた像のひとつなのです。

各館が持つ「博物館力」を引き出したい、その一心で

冒頭の「浮世絵」は、本気で実施すべく、いま検討を重ねています。広重や北斎の作品を所蔵する館は多いですから、数館がご参加になれば実現できます。

弊社や第三者の企画に、「これなら資料情報を出せる」と思っていただければ、あとは画面上でチェックをONにするだけ。各館に眠っている単一の資料情報が、あるテーマや共通項のもとに大量に集まれば、「情報群」としての威力を發揮し始める。これを統括できるアプリを用意すれば、特に意識しなくても自動的に「資料同士、ミュージアム同士の協力体制」が生まれる。

<I.B.MUSEUM SaaS>では、常々「博物館の情報活用力を強化する」というキーワードを掲げています。「ポケット学芸員」は、もしかしたら、実現への最初の扉となるかもしれない。大風呂敷ですが(汗)、そんな手応えを感じる今日この頃です。